

1 総括についての評価

- ・本年度も継続して「いじめ」についての取り組みを行ってきたが、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は昨年の82%から77%に減少した。ただ、学年ごとに割合は増加しており3年生においては84%である。学齢が上がるごとに割合は増加しているため、今後も工夫および改善を図り、「いじめ」について取り組んでいく。
- ・対話的で深い学びにかかる質問の最も肯定的な回答の割合は、昨年の49%から54%に増加し講義型授業から確実に改善されつつあることがわかる。
- ・今後は、多様な学びの場を確保した取り組みの強化を学校全体で機能するようにしていく。

《ご意見》

いじめの質が変わってきたように思う。ネット中心の生活を送る生徒は「いじめ」はいけないこととわかっているが歯止めがきかない。「いじめ」について現実問題として、痛みが理解できるような学びを進めていく必要がある。

2 年度目標ごとの評価

年度目標	達成状況
<p>(1) 安全・安心な教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。(R6 82%) ⇒77%</li> <li>・年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R6 12.8%) ⇒12.5%</li> <li>・年度末の校内調査における、「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。(R6 75%) ⇒83%</li> <li>・多様な学びを保障するための場所を1教室以上、担当する人材を2名以上確保し、市岡中スタンダード ver4.0 の移行を図り、不登校生の減少につとめる。⇒確保できている</li> </ul>	C

《ご意見》

1年生の低い数値が気になる。しかし、数値が低いからといって安心はできない。保護者も学校も「いじめ」の発見が難しくなっているため、改めてお互い情報共有をしていく必要がある。

年度目標	達成状況
<p>(2) 未来を切り拓く学力・体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。(R6 49%)⇒54%</li> <li>・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。(R6[1年]国語0.99/数学0.99[2年]国語0.99/数学0.99[3年]国語0.99/数学0.85)⇒[1年]国語/数学[2年]国語/数学[3年]国語1.00/数学0.92)</li> <li>・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.05ポイント向上させる。(R6 男子1.03/女子1.04)⇒男子0.10/女子0.10</li> <li>・中学校チャレンジテストにおける社会・理科・英語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。(R6[1年]英語1.12[2年]社会1.12/理科0.94/英語0.94[3年]社会0.91/理科0.88/英語0.96)⇒[1年]英語[2年]社会/理科/英語[3年]社会0.99/理科0.88/英語0.94)</li> <li>・授業評価アンケートにおける「授業はめあてと振り返りがわかりやすく提示されていますか」に対して、学校平均を3.55ポイント以上にする。(R6 3.53)⇒3.23</li> </ul>	B

《ご意見》  
 小学校での基礎の積み上げができていない生徒が多数見受けられる。低学力の生徒へのアプローチの仕方を考えていく必要がある。

年度目標	達成状況
<p>(3) 学びを支える教育環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。⇒70.9%</li> <li>・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Iを満たす教職員の割合を50%以上にする。⇒41.86%</li> <li>・地域の人と協働し、学校内居場所事業「はとばカルツチャ」を週に1回程度開催し、生徒の自己有用感を高める。⇒週1回程度の開催に加え、元気アップ事業として天体観測会を2回実施した。</li> </ul>	B

《ご意見》  
 端末の充電を家庭でしてこない生徒が多数いる。家庭での端末の取り扱いがまだ浸透していない。家庭で端末を使用した課題を考えていく必要がある。

### 3 今後の学校園の運営についての意見

学校から帰宅してからの家庭学習の時間が少ないように感じるが、塾や家庭以外での学習時間はカウントに入っていないのではないかと。ただ、塾や家庭以外での学習時間とは別に、自ら学ぶ意欲を持つような時間がもてるように、自主的な学ぶ姿勢を育てていきたい。